

LAST

男の靴雑誌。
[ラスト] vol.2

ローマ、フィレンツェ、マルケ現地取材。
イタリア靴のパワー。

エスカイア日本版
11月号臨時増刊



29ブランドを一挙紹介
旬のイタリア靴プロファイ

ブーツの季節

ファクトリー
オールデン&ホーウィ



上:ウィンドーに近いところにディスプレイされていたホールカットのモデル。実に美しい仕上がり。下:ス・ミヌーラのサンプル。角張ったトウはイタリア的だが、そのずっしりとした存在感はハンガリー風でもあり……とひとつの靴に様々な様式が混じっているような印象を受ける。左:作業中のサスキア氏。白いシャツとネックレスにエプロン。という出で立ちで力強く作業を行う。



整理された作業台の上に乗っていたのは女性用の靴。「でもメンズのほうが得意かも」とはサスキア氏の弁。



店の周囲は、繁華街から少し離れて閑静。シンプルだが若々しい印象のショップ兼工房だった。



SASKIA サスキア

DATA

住所: Via di S. Lucia 24r. FIRENZE
tel: 055-293291
営業: 9:00~13:00, 15:00~19:00 日祝休
価格: ス・ミヌーラのみ1000ユーロ~
(最初は木型代として300ユーロプラス、納期5ヶ月)

ドイツ人女性がつくる、ミックススタイルの靴。

ス・ミヌーラの靴職人……いかにも男の世界というイメージがあるが、そんな中に咲いた一輪の花がヴィヴィアン・サスキア・ウィットナー氏。しかもこの花は、「ドイツ産イングリッシュ・ハンガリアン風味のイタリア製」というのも、ドイツ人である彼女は、ハンブルクでベンジャミン・クラマンという著名な靴職人の許、21歳のときから靴づくりの修行を始めた。この彼女の師というのは、イギリスのジョン・ロブとハンガリーのハライで靴づくりを学んできた人で、彼女も自然とそのすべてのテイストを身につけた。そこでの3年間の修行の後イタリアに渡り、ステファノ・ペーメルの下でさらに3年間修行、独立して現在の工房を開いて2年半……という異質なキャリアの持ち主なのである。この経験は彼女の靴に見事に生きている。「私の靴づくりはミックスカルチャーで、4国の靴づくりの特徴がすべて混じり合っているんです。例えば、足に問題がある場合、カーボン紙を踏んでもらって足の圧のかかるところを調べて、それに合わせて木型を作るなどといったドイツの解剖学的知識、そしてイギリスとハンガリーのデザインテイスト、イタリアの靴づくり……でもやっぱりイタリアの影響が一番強いでしょうか」。本人もこう言うだけあり、「元師匠であるステファノもこの愛弟子を大推薦。現在のところ日本との取引はまだないそうだが、この新進アルチザンの名前が方々で聞かれるようになるのもそう遠い未来ではないだろう。